

みんなで作る
森ものがたい

2021年6月27日発行 第138号

油山自然観察の森
森を育てる会



〒811-1355
 福岡市南区大字松原855-4
 油山市民の森管理事務所内
 TEL: 092-871-6969
 FAX: 092-801-1463
<http://www.morikai.org/>
 mail: aburayama@morikai.org



<4/10 アカマツ林作業>

	表紙	1
も	活動ノート(4/10,4/18,5/9)	2~3
	特集「安全な活動」	4~5
く	特集「SNSの導入について」	6
	油山のお仕事日記「油山の自然ざっくりまとめ」	7
じ	「世話役から」(稀少植物の保護育成)	7
	総会(年度末うん・え一会報告 3/7)	8
	活動予定	8

「森を育てる会」は福岡市油山自然観察の森の保全活動を通じ、広く緑地保全活動を行う市民の育成・交流を行う事を目的とする市民グループです。活動は(公財)福岡市緑のまちづくり協会の助成を受けて行っています。**会では、随時、会員を募集しています。**興味がある方はメールまたは電話でご連絡下さい。

活動ノート



4月10日(土)
アカマツ林作業
9:30~15:30



◆参加者：19名

◆内容：清々しい晴天に恵まれた久々のアカマツ林作業、雨天で三度の延期の後ようやく実施できた活動でした。参加は総勢19名で子供も2~9歳まで7名、賑やかで楽しい活動となりました。自然観察センター前に集合。二家族の体験参加もあり先ずは自己紹介して、ミーティング・準備運動・道具出しのあと森へ向かいました。アカマツ林が一望できる広場でゆっくり作業の身支度をして、最初に皆で活動場所を見て回りました。広場のあるA地区から2月に整備したC・D地区の作業道を通り一番奥のF地区まで、森づくりの話をしたり草の伸び具合を見たりしながら歩いて作業内容の確認をしました。作業はA~F地区の全域を大まかに3つのエリアに分けて行いました。A・B地区では体験参加の家族の中に森会会員



も入って草刈りをしました。子供たちは時折、「あったよ!」とアカマツのあかちゃんを見つけて歓声をあげたり、会員の話を聞きながら虫や植物に興味津々の様子を見せて楽しそうでした。C・D地区は急斜面に刈り残しのシダがあり、これから勢力を増す新芽も一面に目立ってきています。会員が手鎌と刈込バサミを使い足場を確認しながら刈り進めました。E・F地区はこれまでなかなか手が回らずに草と萌芽枝で藪状態になっています。E地区はアカマツの実生も多く見られるようになっていて、急斜面のなか会員は草に身体をうずめながら慎重に草刈り作業を行いました。またここでは斜面の小木を1本伐採して遊歩道まで引き上げ、会員の指導で子供達がノコ引きの体験をしました。F地区は経験のある会員が刈払機を使って背丈の高い草を刈り進め、遊歩道もスッキリ歩きやすい状態になりました。今日は絶好の野外活動日よりで、一仕事した後の弁当タイムには野鳥たちのさえずりにも癒されました。



【ふりかえりより】

・久しぶりの晴天に恵まれて活動ができて大変良かったです。短い時間でしたが充実できました。次回も天気がいいと良いのですが。

・久しぶりに活動に参加しました。お天気も良く、鳥の声も気持ちよかったです。次は子どもたちと参加したいです。

4月18日(日)
カブトムシの森作業
9:30~15:30

◆参加者：30名

◆内容：人数が非常に多かった上、子供の参加も多かったことから、参加者に意向確認の上、班分けをしました。午前中草刈



り班は密にならないよう、A地区南側で東側と西側に分れて草刈りをしました。興味のある人には随時伐採班や同時に行われていた植物調査に参加して貰いました。伐採班も2班に分れてそれぞれA地区下部のB地区近くと、休憩小屋前から伐採を開始しました。伐採したものはチェーンソーで玉切りした後、子供達も参加して枝処理などをしました。午後から草刈り班の一部の人でB、C地区の草刈りをして貰いました。A地区とは違った植生で、特にC地区のハウチャクソウは見事



でした。伐採班は玉切りした材を如何に不自然に見えないよう処理するかに腐心して、あちこちの低くなっている場所に投入した上で、枝葉を使ってカモフラージュしました。伐採、草刈りともほぼ所期の作業が出来、ケガ人もなく終わることが出来ました。今回のように親子での参加が増えるようなら、別途世話役をつけて通常の作業とは別プログラムを用意するのが良いのではないかと思います。

一方、植物調査班は、5m×5mの区画4つで、蕾、花、果実の付いている植物の種類と被度を調べました。同定し、記録を行い12時頃に終了しました。今回の調査では20種確認できました。今回、初めて出現した種類としてツツジ科ギンリョウソウが3か所(内区域外1か所)で見られました。昨年、ほとんど見られなかったウマノスズクサがあちこちで見られたのでジャコウアゲハの産卵を期待します。森は伐採が進み、林床の環境が微妙に変わってきたようです。調査を続けてきたなかで少しずつであるが出現種が増えてきています。森の更新(全伐)が進み、林床が明るくなることで新しい種類が出現してくることが楽しみです。

【ふりかえりより】

- 草刈りで斜面がスッキリ。今回はHPで森の将来をイメージして参加します。
- 私は草刈り楽しく活動出来ました。こどもは木が倒れる様子は近くで見ることが出来て面白かったと言ってました。

特別活動報告

5月9日(日)

カブ森林処理、草刈り

9:30~15:30



◆参加者：7名

◆内容：新型コロナウイルスによる緊急事態宣言再発令直前での特別活動となりましたが、大人数での密作業を避けるとともに、万全のウィルス対策を行った上で屋外作業を行うことにして実施に踏み切りました。今日の作業は、4月18日にA地区で伐倒したコナラやクヌギの残材処理と、1月~2月にかけてNPO団体が研修を兼ねて、C地区で伐倒作業を行ったクヌギの残材処理がメインです。作業は密を避けるため2班に分かれ、また原則として常時マスクを付けて行うこととしました。A地区の残材は玉切り及び枝葉等の処理は終わっており、今日の作業は伐倒した形で横たわっている丸太を、目立たない形で凹地などに積む作業がメインです。本数も2本と少なかったこともあって、作業自体は午前中でほぼ終わり、午後からはC地区の作業に加わりました。C地区では、玉切りされた直径25~35cm、長さ1~2m前後の丸太が、遊歩道の脇に散乱気味に集積されており、またその奥には20cm以下の小~中径材と枝葉がミックス状態で積み上げられていました。ただ、遊歩道脇の大径丸太は管理事務所の方で地区外に搬出するというのでしたので、今回はミックス状態の残材の山を、地区外に搬出する幹材とヤードに入れる枝葉とに分別し、枝葉などをヤードまで運搬することと

しました。実作業では、まずはヤードまでの搬入路の草刈りから始め、またヤードの柵が破損していたため、近隣の立ち木を伐ってヤードの補修を行いました。その後、残材の分別とヤードへの搬入を手分けして行いましたが、この残材の山の他にも、伐倒時に未処理で残った枝葉や、強風で折れた枝などがあちこちに散乱していたこともあって、思った以上に時間がかかりました。それでも14時頃までには、無事に予定通りの作業を終えることができました。その後は、少し時間が残ったため、A地区であちこちに繁茂しかかっていたイタドリを草刈りを行いました。また、安全講習会のプログラムに取り入れるため、4月28日の伐倒時のヒヤリハット事例について、安全講習会世話役とともに、その原因や対策の在り方などについて現地で自由討議を行いました。この結果は、今後行われる安全講習会に反映されると思います。この日は「これぞ薫風」と言えるさわやかな風が吹き、新緑の中で本当に気持ちの良い作業ができました。作業自体も危険性の少ない軽作業?が中心で、たまにはこういった活動も良いなと実感した1日でした。



【ふりかえりより】

- カブトムシの森に散らかっていた枝が片付きスッキリした。
- 一輪車での丸太運びを試行しました。今後、購入して丸太運びに活用していきたい。

＜特集：安全な活動＞

～ みんながルールを知って・守って
いつも笑顔の森会に！ ～

中嶋 宏海

森会では、会の活動を安全に行うことを目的に、安全作業の手順などを学ぶ「安全講習会」を毎年実施しています。

しかし、今年度はコロナウイルスの影響で予定していた日程での開催が延期となり、まだ実施できていない状況です。そこで、今回は講習会の予習も兼ねて森会活動と安全について学んでいきましょう。

さて、皆さんは森会の活動にどんな楽しみを感じて参加されているのでしょうか。それぞれ違うとは思いますが、自然の中でのリフレッシュ、会員同士のコミュニケーション、作業後の爽快感、様々な動植物や自然に関する新たな発見など、活動後は参加して良かったと感じながら帰途につかれていることと思います。

一方で、森会の活動は普通の生活とは異なる自然の中で行うものです。作業では刃物など様々な道具を使い、10mを超える木々の伐倒なども行います。当然、活動を行う上では多くの危険が潜んでいることも事実です。

会員の皆さんにまずご理解頂きたいのは、楽しい活動をするためには、常に、危険と上手につきあう（安全に活動を行う）必要があるということです。

安全講習会の担当というより一人として、単純に、皆さんには、事故やケガなどなく、いつも楽しく笑顔で活動を終えて帰って欲しい。

なので、皆さんには森会の安全作業の基本ルールを今一度確認して頂き、活動時は必ずこれを守るということをお願いしたいと思います。

1 森会の安全対策の考え方

危険を0にすることはできませんが、安全の確率を上げ、危険な目に遭う確率を減らすという考えのもと、様々な仕組みやルールを設けています。

- ①基本的に自分の安全は自分で守ります。
- ②他人にも危険を及ぼさないよう配慮し、同行する15歳未満の子供についても保護者は同様の心配りをします。
- ③活動日は当日の予定作業や事前に想定される危険・その対策などを盛り込んだ実施計画書（世話役作成）に基づき運営します。

- ④参加者は世話役、安全世話役など運営スタッフの指示に従って、安全な運営に協力します。
- ⑤救急箱を活動地に持っていきます。※中には応急医薬品、近隣の病院の地図などが入っています。

2 基本的な注意事項



(1) 服装：森会スタイルを徹底する

- ・長袖、長ズボン（虫刺され、ケガ等予防）
※ハチ刺され予防のため白っぽいものを着用
- ・すべらない軍手着用（刃物等によるケガ予防）
- ・帽子、ヘルメット着用（頭部の保護）
- ・しっかりした靴（足元の保護）
- ・ベルト（道具を着用して放置による事故防止）
- ・リュックサック（飲み物・雨具等の携行品持参）

(2) 体調管理

斜面や暑い中での作業は体力を消耗します。前日や当日はしっかりと体を休めるとともに、作業中はこまめな水分補給と休息を心がけてください。

体調がすぐれないときは、すぐに周りの会員や世話役に申し出て無理をしないようにしましょう。

なお、新型コロナウイルス感染対策のため、参加者は事前に世話役に連絡が必要です。また、熱がある場合は参加できません。マスクの着用と消毒も行いましょう。

(3) 刃物等の使用

作業する上でかかせない便利な道具も、使い方を誤ったり注意を怠ると大けがにつながります。以下の点に注意しましょう。

- ・必ず軍手を着用
- ・正しい使用方法・手順を守る（経験者は教え初心者は教わる）
- ・隣接作業の禁止（周囲に人がいないか確認）
- ・道具を放置しない（必ず身につけ、都度確認）
- ・お互いに声掛けして注意し合う

(4) 作業上の注意

山での作業はちょっとしたことで事故につながります。常に潜んでいる危険に気を配りましょう。

- ・上下作業の禁止が原則（石など落としてしまう可能性があり危険です）
- ・周囲への気配りと声掛け（会員及び来園者）
- ・斜面での転倒（足元をよく確認。山側の足に体重をかけると転倒しにくい。）

3 伐木作業の手順とルール

伐木作業は特に重大な事故につながる恐れのある作業です。生木はとてつもない重量です。その木がはるか頭上から倒れてくるのですから当然です。

伐倒時は必ず次頁の手順とルールを守るとともに、作業者以外も必ず手順を理解し、みんなで注意し合うことで、安全の確率を上げて事故を防ぎましょう。

作業の目標

「最初から最後まで作業者のコントロール下に置き、安全な方向に倒すこと」

安全に伐倒するための手法 ※必ず実施

①事前準備

- ・作業計画、作業範囲、危険・注意箇所の確認

②安全な伐倒方向決め

- ・木の重心を判断（傾き、枝の張り方、葉の茂り具合、つるの巻付有無を確認）して掛かり木にならない方向を決める。
※傾斜面では斜め下方又は横方向が安全
- ・退避方向と場所も決めておく

③周辺の整理（作業と退避をしやすいようにする）

- ・木の周囲や退避場所までの低木や下草等の除去

④受け口、追い口、つるを作る（倒れる方向と速度のコントロール）※下図参照

- ・追い口切りの際、一部切らずに残す部分「つる」を設けることで蝶番の役目をして、決めた方向に徐々に倒すことができる。

⑤クサビの使用とロープによる補助（倒れる方向のコントロール）

⑥笛による合図（作業中、周囲の人への注意喚起）

- ・受け口切り開始時（笛1回）、追い口切り開始時（笛2回）、伐倒終了時（笛3回）の3回必ず実施。

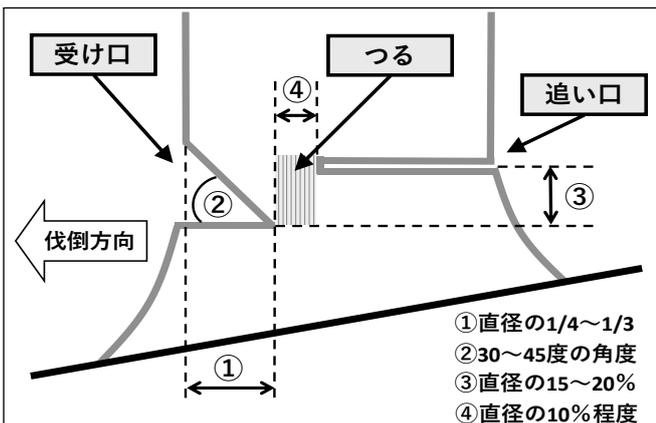
作業中に気を付けること

「周囲の人」…原則、作業者以外は樹高の2倍を半径とする円形の中に立ち入らないようにする。来園者にも十分注意する。

→事前の作業範囲の周知や声掛けを行い、作業者以外も笛による合図を理解し警戒する。また、来園者にも常に注意を払うとともに、のぼりなどで作業中であることがわかるようにする。

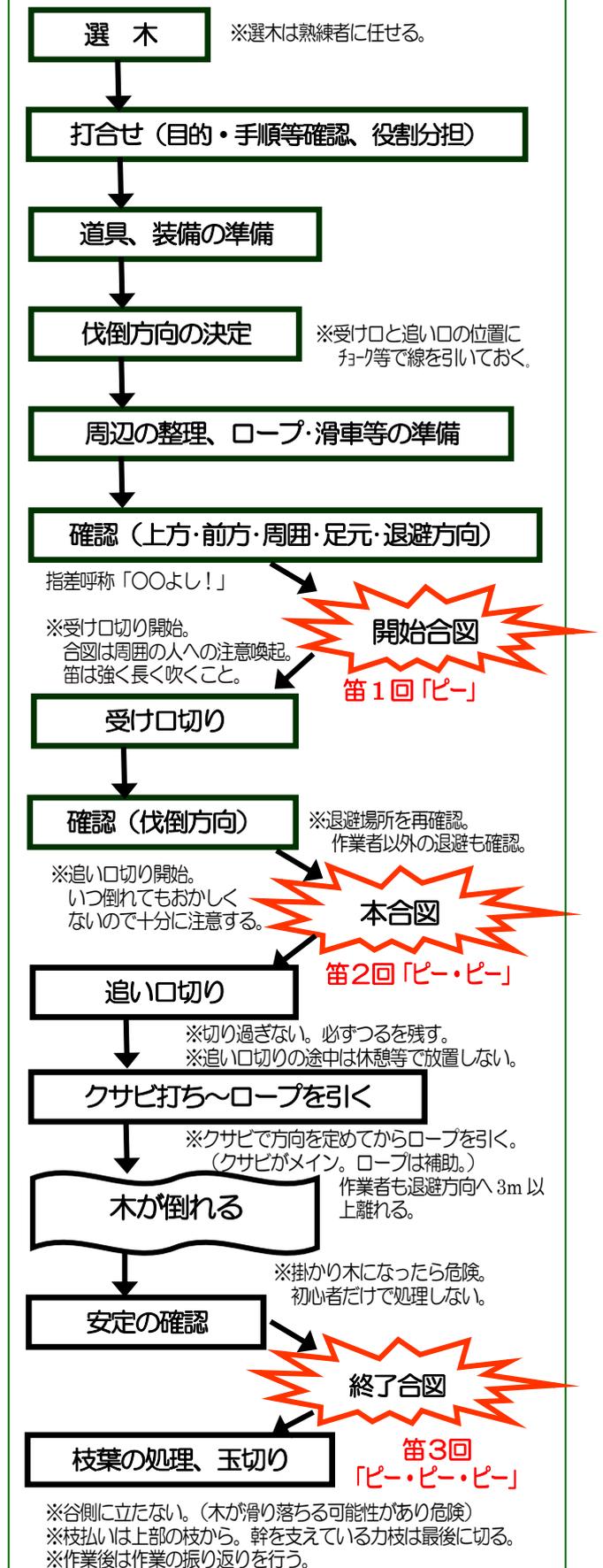
「掛かり木」…伐木対象木が、倒れる途中で周囲の木に引っ掛かった状態になること。

→処置を誤ったり放置すると落下する恐れがあり大変危険なため、掛かり木にならないよう作業する。それでも発生してしまったら必ず熟練者の指示に従い、その日のうちに処置を完了する。



図（受け口、追い口、つる）

伐木作業の手順



<特集：SNSを導入しました！>

平野 陽菜子

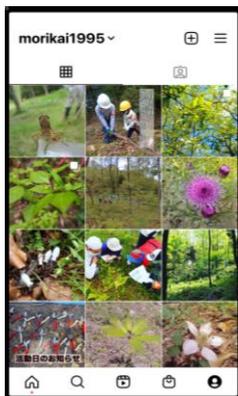
最近、スマホ等の普及により、森会のホームページを見て入会したという人が増えています。そこで、若い人がよく利用しているインスタとツイッターでさらに情報発信をすることにしました。2021年3月より平野が担当となり、運用をしております。まだまだヒヨッコですがよろしくお願いします。

★Instagram、ツイッターって何でみんなするの？

この二つはSNSの種類の一つです。SNSとは、Social Networking Service(ソーシャル ネットワーキング サービス)の略です。文字通り社会的な繋がりを作り出せるサービスのことで、知らない人や、知っていたけど交流が無かった人とコミュニケーションを楽しむための手段です。一般的には、他者との交流を楽しむためにするものなんですね。普段の生活では出会えなかった人と出会い、交流できるため多くの方がSNSを使っています。

★Instagram(インスタグラム)って何？

インスタグラムとは、「写真投稿」をメインとしたSNSです。撮った写真をページに投稿し、みんなと共有します。写真がずらっと並ぶので、視覚的、直感的、そして投稿者の世界観が分かりやすいSNSだと思います。いわゆる「映える」写真を投稿するのはより目に留まって欲しいからです。



Instagramには特徴的な文化ともいえる「ハッシュタグ」というものがあります。#(半角のシャープ)をハッシュタグといい、検索用キーワードのことです。Instagramは写真・動画投稿がメインになるため投稿の検索が難しいSNSです。そのため写真の内容を説明したり、関連する言葉に#(ハッシュタグ)を付けることで投稿を見つけてもらいやすくします。興味のある#(ハッシュタグ)を押すと同じハッシュタグを使った投稿一覧画面を見ることができます。

森会では「#福岡市」「#ボランティア」「#油山」などのハッシュタグをつけて投稿

しています。おすすめのハッシュタグがあればぜひご一報ください。

このハッシュタグ関連で、Instagramでは思わぬところから「いいね」をもらったりします。投稿内にあるハートを押すと「いいね」をした人として記録が残ります。それを見ていると海外の人が押してたりするんですよね…。

昨年木工教室で作成した虫の越冬場所を提供するインセクトホテルの投稿、「#insecthotel」のハッシュタグをたどって海外の方が見ていたのは驚きでした。

会員の皆さん、活動中に見つけた動植物の写真などお気軽に送ってください。

★Twitter(ツイッター)って何？

ツイッターは1回につき140文字で文章(ツイート)を投稿するSNSです。シンプルですが「リツイート」という機能によって最初に発信したツイートが次々と拡散されていくという特性があり、Instagramやフェイスブックに比べるとより拡散力があります。



ツイッターはあらゆる種類の情報がリアルタイムでつぶやかれています。これらを読み取ることで手に入る情報を増やすことが出来ます。知りたい情報がつぶやかれるアカウントをフォロー(特定の人を登録する機能、いつでもその人のつぶやきが見

られる)すれば欲しい情報を自分のアカウントに表示することができます。この特徴を生かして、2011年東日本大震災以降、政府機関などが情報発信のためにアカウントを開きツイッターでリアルタイムの情報を出すようになりました。災害時の情報収集に利用する人も多いです。

★森会の各種SNS★

森会の各種SNSは以下の通りです。

パソコンで閲覧する場合は検索サイトで「福岡 森を育てる会 ツイッター」などと入力すると出てきます。又は以下のURLを参照ください。

森会HP：www.morikai.org

森会 Facebook：

<https://www.facebook.com/morikai1995>

森会Instagram：

<https://www.instagram.com/morikai1995>

森会Twitter：

<https://twitter.com/morikai1995>

油山のお仕事日記

「油山の自然ざっくりまとめ」

油山市民の森・自然観察指導員 小川真樹

先日、油山の自然環境を簡単にまとめる機会がありました。改めて過去の記録などを俯瞰してみて、やはり油山って自然豊かで大切な場所だなと感じたところ
です。

過去の記録は、2009年に野鳥の会が発行した「油山自然環境調査報告書」がとてもきれいにまとめてあり素晴らしい資料です。その資料をひも解くと表のようになります。植物は油山の多様な環境を反映しておりシダ植物も含めると800種以上も記録されています（資料を読み込むのに目がたいへん疲れます）。水の多い油山なので、地形が複雑に入り混じっているのですね。アカマツ林と水の森だけ比べても、乾湿・明暗の差は歴然です。さらにその中間エリアもあるわけで、植生が多彩になっていくのは当然だと思います。その植物を利用する生きものたちも自然と多様性に富むの
でしょうね。

2009年以降の調査では菌類が爆発的に追加記録されています。もともと未開のジャンルであり、ボランティアさんや職員のきのこちゃんの貢献も加わったためです。菌類というのは、物質循環サイクルの中で分解者という重要な立ち位置に加え、植物の生育に決定的な影響も与えていることがわかっています。水環境と共に、豊かな菌類が油山をささえているのではないかと最近よく思います。

ところで、追加種の中で哺乳類に1種を計上しています。これは2019年に四季の園で発見された特定外来生物のアライグマの記録です。発見時は野犬に襲われたのか、損傷した遺体でした。花畑園芸公園には出没していると風のうわさ程度に聞いたことがあったのですが…ついに市民の森まで勢力範囲を広げてきたようです。

今回は2020年までの記録を暫定整理したところで
す。引き続き調査と整理を継続していきます。

	2009年資料 目録数	以降 追加数	左記の内 希少種数
種子植物	763	46	37
シダ植物	117	—	3
菌・粘菌類	230	249	整理中
哺乳類	22	1	5
鳥類	149	4	28
爬虫類	13	—	4
両生類	12	—	6
昆虫類	1954	25	33
計	3260	324	116

「世話役から」

「希少植物の保護育成」担当 鎌田

ぼくらのフィールドであるカブトムシの森やアカマツ林には、もともとあった貴重・希少な植物や管理してきた中で発生してきた植物があります。

それらの植物を管理するために五カ年計画に合わせて、保護・育成計画を立てました。

保全方針は以下の通り

希少植物の保護・育成と多様な動植物が息息・観察できるような森づくりを行うために樹木、草花の保全に加え、周辺の植生からの移行や移植を行い観察資源となる植物を増やし、それらの植物に集まる生きもの等の多様化を図る。

ここで言う希少植物とは、油山で見られる貴重な植物（数が少ない、花がキレイ、特定の昆虫の食草、吸蜜植物）はもちろんのこと、普通種であっても数少ない植物は、残しておきたいと考えている。たとえば、アカメガシワやイタドリなど放置すれば繁茂して仕方がない植物でも観察対象であったり、昆虫の食草であるため一部に残しておきたいと考えている。

「希少植物の保護育成」の具体的な作業は

- ①希少植物周りの除草
- ②希少植物の支柱建てとラベル設置

ここで重要になるのが保存すべき植物に取り付ける目印（マーキング）である。一昨年までは、保護対象の植物か否かは、テープがついているかを確認しながら鎌で刈ってきたが刈り払い機を導入したことにより作業スピードがアップしたことで誤伐してしまう恐れがあり、一層目印が重要となってきている。

現状では、伐採する木、保存したい植物共に目印としてピンクやイエロー、オレンジのテープをつけているがどれを残すのか、切るのかの判断が難しくなっている。貴重な植物への目印やラベル付けは、盗掘される可能性のある種については常時目印がついている状態は盗掘の危険が高まるため避けたい。対応策としては作業時に目印を置く又は、紐で区域を囲う。作業終了後に回収。また、アカマツ林では、幼木にピンクのテープをつけてきた自然景観の中では、この目立つテープは、景観を害しているとも考えられる。保護・育成が必要な植物（樹木、草花）の発生を確認したら、すべてを対象とするのではなく、将来的に残していく必要があるか否かを判断し、大切に管理していきたいと考える。関わる人それぞれ考えの違いや好きな植物の好みが違うためのバランス・調和を図りながら見守っていきたくと考えています。ご意見・ご要望をどんどんお寄せください。

うん・え一会報告

2021年3月7日(日) 9:30~15:00 出席者 11名

1 役割決定、資料確認

2 12月~3月活動報告→詳細は会報第137号参照

3 12~3月特別活動報告

- ・12/5(土) アカマツ林作業・作業道整備、材処理
- ・2/21(日) アカマツ林作業・作業道整備

4 12~3月対外支援活動報告

1/15(金) 柏陵高校環境科学コース・油山自然研修
→生徒40名、先生5名参加

5 2020年度経過報告(2021年3月6日現在)

5-1. 会員数 →33所帯、53名

5-2. 活動実績

年間活動18回 参加者(総数186名 平均10.3名)

特別活動2回 参加者(総数15名 平均7.5名)

対外支援活動1回 参加者(会員6名 学校側45名)

5-3. 「2020年度世話役活動の振り返り纏め」報告
(詳細はメール添付資料を参照)

→新型コロナウイルス対策で中止した活動は5回

→2021年度からは参加人数を記入することとする

5-4. 会計経過報告 →予算消化はほぼ順調。

・保険支出(ボランティア保険とグリーンボランティア保険)、
郵送料、その他消耗品等→事務局経費

・備品、消耗品(ガソリン、オイル、替刃等)→備品管理

6 2021年度審議

6-1. 役員関連 →規定により前年度役員の留任決定

6-2. 会員関連 →会員登録案内

6-3. 活動関連

① 日数、活動日、項目、内容等→「2021年度 活動
予定」を参照し積極的に参加してください

→2022年2/27(日)予定 椎茸コマ打ち(特別活動) :
11/7(日)までに参加者の確認をする。

→2022年1/14(金) 柏陵高校・油山自然研修 決定

② 世話役→前年度と同じ 計画案提出3/16迄

6-4. 助成金関連 ①助成金「福岡市緑の森づくり協会」
より10万円決定

6-5. 森会におけるSNSの活用について

当面は試験的な運用とし、反応や効果を検証する→検
証の結果、継続の場合は運用方法、掲載内容等要検討。

7 センター連絡事項

7-1. 2021年9/18(土)~20(祝)グリーンウッドワ
ーク指導者講習：一般より参加。森会会員も参加OK

7-2. 2022年2/6(日)親子森林教室：開催を調整中

7-3. 市民の森リニューアル事業について：福岡市が油
山市民の森と油山牧場を再整備する計画。

8 発送作業 会報137号、会員登録案内、振込用紙

9 メール発信書類 会員登録用紙、世話役活動の振り返
り纏め、2021年度活動予定、活動計画案用紙(世話役宛)

活動予定(2021年6月~)

★〈作業〉〈調査〉〈観察〉は小雨決行

〈うん・え一会〉〈勉強会〉は雨天決行

活動時間：9:30集合 ~ 15:30解散

★荒天の場合はセンターまでお問い合わせください。

★活動内容は、当日の参加人数、天候等によって変更
になる場合があります。

★〈作業〉の標記のある日の服装は「森会スタイル」
(長袖、長ズボンで安全に作業ができる動きやすい
服装)でご参加ください。

必要な持ち物は

いぼ付軍手・帽子・タオル・弁当・飲物・おやつ・
筆記用具の他、必要に応じて着替え・雨具をご持参
ください。



7月4日(日) カブトムシの森作業

(予備日7月11日(日))

散策路を中心に全域の草刈りを行う

7月25日(日) カブトムシの森昆虫調査

水棲昆虫観察、ホイホイ&ピットフォー
ルトラップ回収とルート観察



8月1日(日) 草木染め

油山で取れる植物等で草木染を行う



8月15日(日) 木工教室

保全作業で伐採した材などを使って工作を行う

9月5日(日) うん・え一会と備品管理

・うん・え一会

4~6月活動報告、7~9月活動予定

・備品管理

鎌、剪定鋏、刈込バサミの研ぎ出し、備品管理台
帳の最新化



油山自然観察の森 森を育てる会

会報『森ものがたり』 季刊

編集担当：川上、西岡、鎌田、静間、松雪、平野
